

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 27, No. 1 神奈川県立生命の星・地球博物館 Mar. 2021



レッドデータの鳥類

図A: タマシギ *Rostratula benghalensis*
(KPM-NQB 758※)

図B: ヒクイナ *Porzana fusca*
(KPM-NQB 759※)

図C: トラフズク *Asio otus*
(KPM-NQB 757※)

神奈川県／重永明生 撮影

かとう
加藤 ゆき (学芸員)

※当館電子台帳上の資料番号はゼロを付加した
6桁の数字で表記されます

写真の鳥はすべて、『神奈川県レッドデータブック2006』(2006年刊行)で最も絶滅の危険度の高い「絶滅危惧I類」に評価された種です。主に夏鳥として渡来するタマシギとヒクイナは、かつて平地の水田や河川等で見られましたが、近年はごく限られた場所でのみ確認されていません。開発や^{かん}乾田化による生息環境の悪化が原因だと考えられます。しかし、環境が残っている場所でも生息を確認できず、他にも要因があると思われます。

数少ない冬鳥として河川や都市公園に渡来するトラフズクは、もともと生息地が局地的でしたが、越冬が確認されなくなった地域が出ています。本種は昼は

ねぐら木で休み、夜間に行動します。開発等によるねぐら環境の減少に加え、ねぐら木への人間の過度な接近が原因だと考えられます。餌場となる草地の減少も要因として考えられますが、ほとんど鳴かないため声での確認が難しいこと、暗闇での観察が難しいことから、詳しい生態解明は進んでいません。

神奈川県では、2017年から県版レッドデータブックの改訂を進めています。生物が置かれている状況を把握し、絶滅の危険度を評価するために、様々な方から寄せられる情報が重要なカギとなります。写真で紹介した鳥に限らず、広く生物の情報や写真を博物館までお寄せください。